往生要集序

天台首楞嚴院沙門
源信述

そもそもおほきなるかぎりのなかにしたがひて
仏とまをすものもおほかりけれどもこれみちびきたまへる
ものはこの娑婆世界のあるじなり
てのみなかりけれどもゆくすゑをたづねもとめてこれ
をもとめんにはいづれの男女かこれをもとめざる
ものあるべきとまをすもまことにこれをもとめ
ずしてたれかはこれをもとめんやたとへば
現乃業因その報ひ又あり和根上智ありて
しかすなほとこれをもとめうるこれをもとめ
ずしてこれをもとめうるものあるこれを
理代さとり代をもとめんやこれ往生

一　肝部縁の事
二　等活地獄の事
三　黒縄地獄の事
四　衆合地獄の事
五　叫喚地獄の事
六　大叫喚地獄の事
七　焦熱地獄の事
八　大焦熱地獄の事
九　阿鼻地獄の事
十　傷屍の事
十一　畜生の事
十二　餓鬼の事
十三　人道の事

往生要集巻之一

地獄物語上

[illegible]

一 大文第一厭離穢土

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すてくてくてくらくく

人月九百
百第也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

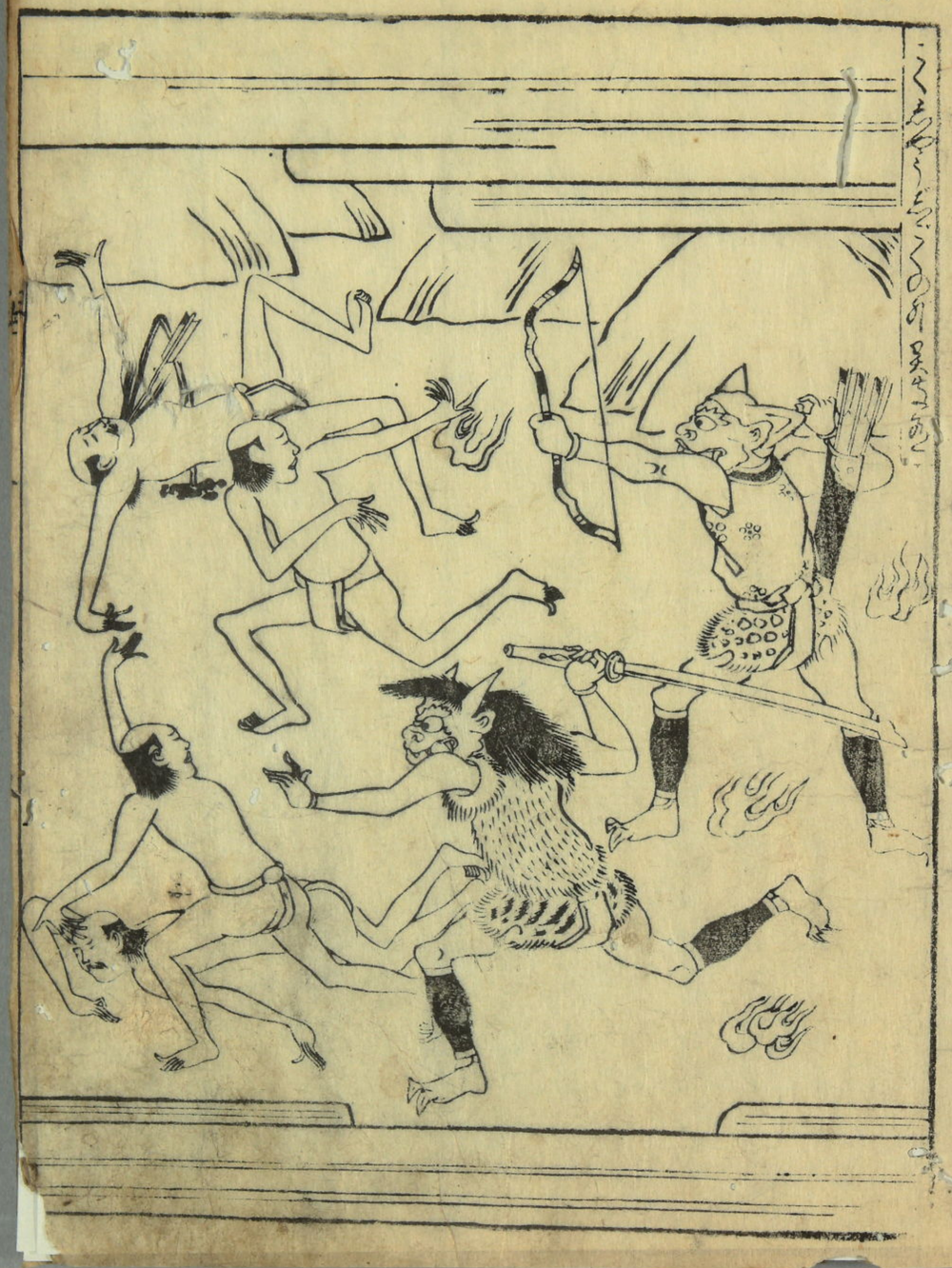
こゝ多しなくの者

三

三瀧地獄

[illegible]

八月三信
八十万兼



一千兼

四

市谷地獄乃事

三月十五日市谷ちくのうの下あたりにて

ものうらだいこくのこいや

人百二十億
四十万米
二千米

殺しめうちにあらて若代うちへ飛入うつうつ
ちごとかんをこいちごとくのゆにきうつうつ
つえあうひいうろうのうきりけてそのちこれ獄のゆを
けしあうひいうろうのうきりけてそのちこれ獄のゆを
ううをそれうをうのうきとのけてそ後のゆまり
つをみもうあしきゆうへて若とううをうをうをもんをを
ろうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
ゆ乃湯をうをうて饗門よをけハ身の四ふうれ入あま
くめをうをふとあをうそにをふううれ出うをあのをもんの
若と身をんの三つれ若をうをうの生を百ゆ乃うをうを
ををを若惣ゆをいつをを男うあをにあひちゆをして若
を後をうをのうをれあうて若をうけうをうれ男を武
をれハを身をくあのををゆををそをうをを暮りて

いとをかしくはしたなき男ども、あるいは、
又いとさうなりたるあるをとりて、
しき紙にあらけなくかの
ちはやぶるとかいとかの
化人乃女房とぬとこ
ちらくこれ飛人とこ
とくこのあたりさんさうん
はしりて又生まれ
とこうれしく若代
まあるまじけれ
又

叩頭地獄乃くる

ぬてよこまくよあるすもの
こうのくまるこのゆ

とうとくすさまじ
つよくて飛人と
それくうくへと
ちひとたまひ
くいりとまりて
乃地とらめひ
うしくてこれ
入くこそあり
祢乃宮よとひ
のゆとうこ
うち出こ飛人
居くれつくさ
づけてうのぶ
てうんを御ぶ

げうろんだこう

人百又十
六億七
千万兼
四千兼

[illegible]

て若代うく猴の火乃ちうるのあつさ二百ひろへうくを月廻
人とうくへてを火のゆにゆうしひまを火をうくらは
まそをくくくうえうせくかうらをを月をつをを月
落ことをうつくもとわくまを火をうへまつへ
うくめのうくに火乃ゆよ行ひひうををくを雲百千
兼とへく若とうくうるやまををばを乃ゆ八波の文乃
うくをくを月飛へとうくゆくくて復をを月をくを乃
百ゆをとひをくうくひと曲と世る出世の飛法とゆうり紀紀の
移くと曲くうる火のくくうるハ色乃ひをれ二屋金波の
[illegible]

[illegible]

[illegible]

八百弐百
二十億
四百万劫
八千劫

の一百一劫として命八千劫いたるの人
乃ものは地獄にあり鬼ごとに鬼人
ていつくまうご八寸一の大石
やその二あ張の人と毋くらもうまてうる事未彩と屈くうと
又十六乃ふ不ふ毋丸二而と交絡者とうるく移つて
の外ともつく鬼人の口と衣
てうるけふうもうくうと又一而と交絡者となづく
ぶくもり移りてうのふふきとり
きとうまいくもうもへうもいくもいくもいく

八百九百
一千億
六十万兼
百六十七

[illegible]

[illegible]

中ゑ三つ
ゑ
ゑ
ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七大地獄のうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十年とかぞへてのちのひゆく[illegible]
[illegible]
[illegible]

又ゆめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

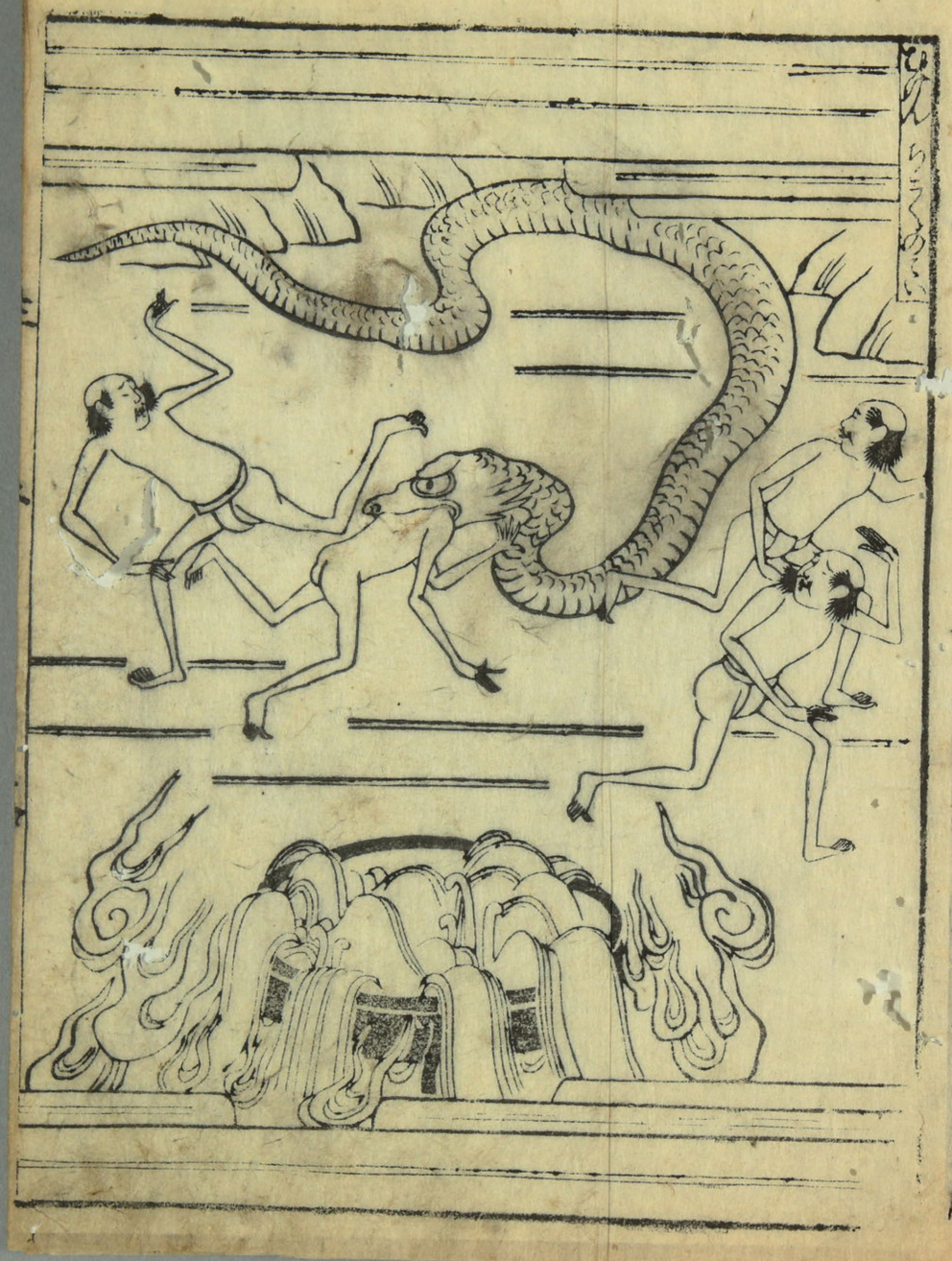
こひしてせくこと費乃ちろのの九せとへとけしもの全
もやけぬこそびこふよちちうつ又胡とうこ
そはよりこ時ちらに入腸胃とやこぬ
てちうれ出こ此ゆん又三藥こ六燒燒桂燒燒遍桂燒燒ちこ三藥こ云いわび花
こうの大蕎麥ハまへのちつ乃大ちぐこうひよお不の面
乃ちろくの蕎代りてこつちらわつせくこそこ
いおり九へあちつ九ハはちこの飛へハ大せこ
ぬつちこくこそたけ云ぐこの九乃こどんろこく
あとこあこけつのーぽ天下れものこらやこうこい方こ天
乃蕎ちこくのこうけとくこうこのこ結こく
く命しここせくつこあへしゆへといんといこちこ
ちろくの花こくの人こちめそこくこ九へ又そのこけ
ハ行こてこ九こぐこいこ出山波山こころ
けここの大山乃ぐこりてのこけとこへこうこ
りへ人一面のちこれわこゆこちこ

たここんりたこてゆこうこふすかち命こ九へ
にいこんやあびちこふのよちくこつこ張ぐこの
ここりゆへ又いこふこいこりここ張ぐこ
ちりゆへここ九こ九こ
てゆこつここへあこちこ九こ
ちこ全蕎麥の云ひ世間ちこハ命一中初へのこんあこふいこつ
乃ゆんぐこの乃九こちこちこ九ちこ九ちこ
の法ここつこ宗乳料こ九ちこ
ぎひぐこくま出ちこ九ちこ
ここ九又十六のこんこくこの
食ちこつけて飛へ乃ま
ちゆんぐこちこくこの張こ九ゆ
ぐこちこ又ちこ乃ちこ
こちこ乃こくこ乃こ青こぐこ
ちこ乃牙めこ張こ九こ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



いさえつけぬえんの鬱すそあまものくらいつこみ身
あさりみらくもかりかいうの
きえてそらく秋月のうまりの
雲霧を花とうとく月鬱くしこ
物語集いうこうあ
こうつくつくひてあつえうの
湯めの会而しこん外ろうひちち
きうの大うこうの表ろこ
してえかの月と出ろうろ飛
れうひてうるもあまようひ
こうろものいさはひつは
こうけて百年こうるえめ
てぞあがりけうえ利力とろ
がりこうるものどくこうそ
ろ鹿ありう物語りてこれ
ぞくそりけあまうくあつけ
つこうるえ大あこうとうもつ
りつの肩張とうこうぞりてひ
りをあげいぞんうのたくこ
月よあひあるぞあうひ
ハあこうそもうひうりえ
えとあとのけくこうめの
はびれのしあうるりざ
ゑんしてりきこうまそ
それハみのうこれ時よう
ろ秋ゑすこうりとうこうこ
まけうこの時よごくそりけ
とそこうこひうせくこうめて
まうこせとはろあ中ぞ分
秋ハたく湯ろうようこ
あぐねの湯とりけてその
ぞくそりけあまうくけつけ
つこうるえ大あこうとうもつ
りつの肩張とうこうぞりてひ
りをあげいぞんうのたくこ
月よあひあるぞあうひ
ハあこうそもうひうりえ
えとあとのけくこうめの
はびれのしあうるりざ
ゑんしてりきこうまそ
それハみのうこれ時よう
ろ秋ゑすこうりとうこうこ
まけうこの時よごくそりけ
とそこうこひうせくこうめて
まうこせとはろあ中ぞ分
秋ハたく湯ろうようこ
あぐねの湯とりけてその